

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
コバヤシ カズユキ 小林 一之	男	1959年	教授 (特別任用)	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	修士(教育学)	専門分野	日本語表現教育・日本近代文学	
学歴	1977年 3月 山梨県立甲府第一高等学校 卒業 1977年 4月 早稲田大学第一文学部 入学 1982年 3月 早稲田大学第一文学部日本文学専攻 卒業 2000年 4月 山梨大学大学院教育学研究科教科教育専攻国語教育専修 入学 2002年 3月 山梨大学大学院教育学研究科教科教育専攻国語教育専修 修了			
実務経歴	1986年 4月 山梨県立甲府昭和高等学校 教諭 1988年 4月 山梨県教育委員会 文学館準備室主事 1989年 4月 山梨県立文学館 学芸課主事 1993年 4月 山梨県立塩山高等学校 教諭 2002年 4月 山梨県立甲府城西高等学校 教諭 2018年 4月 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科 専任講師(特別任用教員) 2020年 4月 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科 教授(特別任用教員)			
受賞歴				
所属学会	1982年 4月 早稲田大学国文学会 2000年 4月 山梨大学国語国文学会 2018年 4月 初年次教育学会			
特免資 許許格 等 . .	1982年 3月 中学校教諭一種免許状(国語)[東京都教育委員会] 1982年 3月 高等学校教諭一種免許状(国語)[東京都教育委員会] 2002年 3月 高等学校教諭専修免許状(国語)[山梨県教育委員会]			
e-mail	kzkbys@yamanashi-eiwa.ac.jp			

## 目 次

### ○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

### ○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

### ○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

### ○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

### ○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、  
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、  
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

## 教育業績

教育理念、方針、方法	<p>学生が高度な思考力と表現力を獲得し、他者と対話して、自分自身の課題や社会の課題についての確に分析し、主体的に解決する力を持つように育成することが、教育の理念であり方針である。そのために、思考と表現の構造化、それを可視化するワークシートやスライド資料の活用、個人・グループ・全体という授業形態の組織化など、構造化された教育の方法を開発し、実践している。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>1年次必修科目「日本語スキル1・2」では、論理的な思考力と表現力を育成している。2022年度は対面授業の中にGoogleのClassroomとMeetを使ったオンライン授業を組み込んで実施した。「論証モデル」(根拠に基づく理由づけによって主張する)や「弁証法モデル」の思考方法を図示して説明するスライドを活用して、それと連動するClassroomの質問や課題によって、学生の構造的な思考を育成し、Googleドキュメントの共有ファイル、提案モードでのコメント機能を使って、学生の提出させた800字程度の小論文に対する個別指導やフィードバックを行った。「論証型レポート」の作成方法、文献検索、引用・出典の記載方法を指導し、3000字程度のレポートを執筆し、自己評価・分析を行わせた。受講生が各自の〈思考と表現のデザイン〉の方法を確立し、アカデミック・ライティングの基礎力を獲得する教材を開発し、その教育を実践している。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>『現代文B』[文部科学省検定済教科書 高等学校国語科用](2017年2月 教育出版)</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p> <p>講演「思考の構造化－思考力・表現力を育成するための教材と指導」(2022年5月 和歌山県高等学校国語教育研究会 令和4年度総会)</p> <p>講演「書くことの指導の在り方について」(2017年7月 「授業力を磨く!『書くこと』指導研修会」 主催・山梨県総合教育センター)</p> <p>発表「思考シートによる構造化」授業の試み(2017年1月「思考と表現のデザイン」教育－高大接続フォーラム 主催・山梨英和大学)</p> <p>発表「小論文連携授業ver.3—山梨英和大学との連携の試み—」(2015年2月 山梨県高大連携教職員セミナー 主催・大学コンソーシアムやまなし)</p> <p>発表「小論文連携授業—山梨英和大学との連携の試み—」(2013年2月 山梨県高大連携教職員セミナー 主催・大学コンソーシアムやまなし)</p>
担当授業科目	<p>日本語スキル1・2、山梨学Ⅰ・Ⅱ、日本文学講読Ⅱ</p> <p>専門ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業プロジェクト</p>
代表的シラバス	<p>以下、2022年度「日本文学講読Ⅱ」のシラバスからの抜粋。</p> <p>概要: 日本文学講読Ⅱは、近代作家が夢を描いた作品(夏目漱石「夢十夜」・志賀直哉「梟」・内田百閒「木霊」・芥川龍之介「蜃気楼」「夢」等)を読解し、その語りの構造や夢のモチーフを分析し、無意識の世界について考察する。関連して、精神分析家ジークムント・フロイトの「夢解釈」の理論と方法の基礎を学び、フロイトが日本近代文学に与えた影響について理解する。</p> <p>授業計画表:</p> <p>第1回 日本近代文学と夢…本近代文学における夢をモチーフとする小説の系譜を振り返る。フロイト「夢解釈」(1900年)の理論と方法(顕在的夢内容と潜在的夢思考の差異、夢工作の過程など)の基本的な知識を得る。</p> <p>第2回 夏目漱石(1)…夏目漱石「夢十夜」第一夜(1908年)の語りの構造とモチーフの分析、「こんな夢を見た」の話法、「黒い眸のなかに鮮に見えた自分の姿」という鏡像、「百年」という時間の構造、内田百閒への影響</p> <p>第3回 夏目漱石(2)…夏目漱石「夢十夜」第二夜・第三夜(1908年)の語りの構造とモチーフの分析、「無はちつとも現前しない」の表象の不可能性、「何だか知ってる」と「判然とは分らない」の既知と了解の関係性、「自分の過去、現在、未来」を照らす「鏡」「光」と時間の循環</p> <p>4回 志賀直哉(1)…志賀直哉「イヅク川」(1911年)の語りの構造とモチーフの分析、夢のリアリズム、〈イヅコ→イヅク〉という言葉の音の転換、芥川龍之介への影響</p>

代表的シラバス	<p>第5回志賀直哉(2)…志賀直哉「梟」(1925年)の語りの構造とモチーフの分析、くふくろ→おふくろ→おやじという言葉の連鎖・機知、芥川龍之介「死後」との比較</p> <p>第6回内田百閒(1)…内田百閒「木霊」(1921年)の語りの構造とモチーフの分析、「私」と「女」、追跡と歩行の話法、「暗闇の中に昔の事を思い探って止まなかった」というモチーフ</p> <p>第7回内田百閒(2)…内田百閒「件」(1921年)の語りの構造とモチーフの分析、夢の物語性、異者・異物としての存在、予言と成就の不可能性、芥川龍之介への影響</p> <p>第8回芥川龍之介(1)…「地獄変」(1918年)の語りの構造とモチーフの分析、予兆としての夢、男性の語りと女性の沈黙、権力・芸術・享楽の構造</p> <p>第9回芥川龍之介(2)…「海のほとり」(1925年)の語りの構造とモチーフの分析、作中の「鮒」の夢と「識域下の我」、「海のほとり」と「蜃気楼」、芥川と久米正雄</p> <p>第10回芥川龍之介(3)…「死後」(1925年)の語りの構造とモチーフの分析、「僕自身」と「夢の中の僕」、全集本文「フロイドは」の削除問題、芥川とフロイト</p> <p>第11回芥川龍之介(4)…「年末の一日」(1926年)の語りの構造とモチーフの分析、作中の「水鳥」の夢と「夢の中からがたがた言う音」、芥川と夏目漱石</p> <p>第12回芥川龍之介(5)…「蜃気楼」(1927年)の語りの構造とモチーフの分析、作中の「運転手」の夢、「意識の閨の外」の「いろんなもの」、芥川と無意識の世界</p> <p>第13回芥川龍之介(6)…「夢」(1927年)の語りの構造とモチーフの分析、「それから先の夢の記憶」と「その夢の中の出来事」、芥川とゴーギャン</p> <p>第14回文学と夢…夢を描くことによって無意識の世界を探求した作品の系譜を振り返り、文学作品と夢の関係について考察する。フロイトの夢解釈の理論が日本近代文学に与えた影響についても理解する。</p>
教育改善活動	<p>学内のFSDS等に参加して、教育についての改善を心がけている。初年次教育学会に所属し、特に1年次学生に対する日本語表現教育の方法、評価についての改善の事例報告、研究論文を読み、授業の改善に努めている。初年次教育学会の先進的な研究を学ぶことによって、自分の教育に対するリフレクションと教育の改善を試みてきた。</p>
教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価</p> <p>日本語スキルの授業で思考の過程を図示して視覚化するスライドを活用しているが、受講生は思考の過程を整理することができるかと評価している。文学講読の授業でも、表現やモチーフの分析を視覚化するスライドやワークシートを利用して学生のテキスト分析や記述能力を高めている。対面授業の中で、オンラインのGoogle ClassroomやMeetを活用し、学生の議論を深めている。授業全体を構造化する方法は学生から評価されているが、今後さらに改善して教育の質を高めていきたい。</p> <p>なし</p>

### 研究業績

研究の特徴	<p>日本近代文学研究では、芥川龍之介を中心に、フロイトとラカンの精神分析の方法に基づいて、テキストの語りの構造、夢や無意識のモチーフを分析している。また、日本語ロックの歌詞と近代詩・現代詩の関係について研究している。日本語表現教育では、論証モデル・議論モデルを基軸に、思考過程の図示・可視化によって、アカデミックライティングのスキルを育成する教材や方法を開発している。</p>
研究経歴	<p>1988年 山梨県立文学館で芥川龍之介資料を研究し、常設展・企画展等を担当した。</p> <p>～1993年</p> <p>2000年 山梨大学大学院で、芥川龍之介『歯車』を中心とする晩年の小説を研究した。</p> <p>～2002年</p> <p>2018年 山梨英和大学で日本近代文学・日本語表現教育を研究している。</p> <p>～2022年</p>

研究実績	<p>(1)著書  「思考の仕方を捉え、文化を深く考察する—随筆、歌詞、評論を関連付けて読む—」  (『変わる! 高校国語の新しい理論と実践—「資質・能力」の確実な育成をめざして』大修館書店 2016年11月 共著)  「篠原春雨・中沢春雨」(『山梨の作家&lt;2&gt;』 毎日新聞甲府支局編集 山梨ふるさと文庫 1995年9月 共著)  『生誕百年記念 芥川龍之介展 図録』(構成・資料説明等 山梨県立文学館 1991年10月 共著)</p> <p>(2)学術論文  芥川龍之介「死後」の分析 (「山梨英和大学紀要」第21号2023年3月)  夢の分析—志賀直哉「梟」 (「山梨英和大学紀要」第20号2022年3月)  「運命」と「All right」—芥川龍之介「歯車」第一章の分析—(「山梨英和大学紀要」第19号2021年3月)  手探りで進む—主体的・対話的で深い学びのために(「これからの国語教育」第2号 2019年3月)  芥川龍之介《夢》の位相—語る存在の行き詰まり—(「述論」第1号 1998年12月)</p> <p>(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)  「思考の構造化による読解と記述」(「エデュケーレ」特別号、2019年4月 第一学習社)  『『高校国語』を探究する書』(「国語教室」第104号、2016年11月 大修館書店)  「国語教育のこれまでとこれから」(大滝一登・幸田国広・佐藤和彦・河手由美香・小林一之・十文字富美絵) (『変わる! 高校国語の新しい理論と実践—「資質・能力」の確実な育成をめざして』大修館書店 2016年11月)  「小川洋子『バックストローク』を読む(後編)」(「高校メルマガ」22号、2010年6月 教育出版)  「小川洋子『バックストローク』を読む(前編)」(「高校メルマガ」21号、2009年6月 教育出版)  調査「学校運営(学校会議)について」(「平成21年度海外派遣プログラム報告書『学校評価と学校運営』ドイツ」独立行政法人教員研修センター2010年3月)  報告「キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修」(「平成20年度研究紀要(第41号)」 山梨県高等学校教育研究会進路指導部会 2008年3月)  「文学館・原稿・欲望」(「DOME」Vol.10、1993年10月 日本文教出版)</p>		
	競争的資金採択課題	なし	
	学役会等参発加表・	2019年	5月「大学入学共通テスト平成30年度試行調査国語記述式問題—思考の構造化と可視化による分析」(これからの高校国語教育研究会・早稲田大学)
	受託共同研究の実績	なし	
	大学院生指導	なし	

研究能力に対する評価	これまでのところ研究能力に対する客観的評価はない。
------------	---------------------------

### サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2019年 4月 フルーエンシー科目連絡者 2019年 4月 国際交流担当主任・国際交流室運営会議委員 2019年 4月 カリキュラム改革検討委員会委員(日本語教育改革委員会副委員長) 2019年 11月 学内パソコン検討委員会委員 2020年 4月 緊急対策本部委員 2020年 4月 進路部運営会議委員(進路部担当長) 2020年 4月 国際交流担当主任・山梨地域コーディネータ養成プログラムチーフ 2021年 4月 国際交流担当主任・山梨地域コーディネータ養成プログラムチーフ 2022年 4月 山梨地域コーディネータ養成プログラムチーフ
アドバイザー活動実績	専門ゼミナール、卒業研究プロジェクトの学生たちに対するアドバイザー活動、学修・研究・学生生活・進路などについての面談や支援を行っている。
後進育成活動実績	なし
社会貢献活動	(1)講演会 2022年 3月 山梨市日下部公民館映画祭 『『笛吹川』の世界ー木下恵介と山梨』 2023年 2月 山梨市日下部公民館映画祭 『『二人で歩いた幾春秋』木下恵介と戦後山梨』 (2)出前講座 2018年 5～12月 山梨県立甲府城西高等学校 山梨英和大学連携授業「小論文」(3回)・同講座(4回) 2018年 6月 山梨県立身延高等学校 「志望理由書講座」 2018年 10月 甲斐清和高等学校 「志望理由書講座」 2018年 11月 北杜市立甲陵高校 「小論文講座」 2018年 12月 山梨県立甲府西高等学校 「ロックの歌詞を読んで日本語表現を考える」 2019年 5～12月 山梨県立甲府城西高等学校・山梨英和大学連携授業「小論文」(3回)・同講座(3回) 2019年 6月 山梨県立身延高等学校 「志望理由書講座」 2019年 9月 長野県赤穂高等学校 「ロックの歌詞を読んで日本語表現を考える」 2019年 5～12月 山梨県立甲府城西高等学校 山梨英和大学連携授業「小論文」(3回)・同講座(4回) 2020年 8～12月 山梨県立甲府城西高等学校 山梨英和大学連携授業「小論文」(1回)・同講座(2回) 2021年 9月 星槎国際高校学校 「ロックの歌詞を読んで日本語表現を考える」 2021年 10月 山梨県立甲府東高等学校 「ロックの歌詞を読んで日本語表現を考える」 2021年 11月 山梨県立吉田高等学校 「志村正彦の世界ー富士北麓の風景と歌詞」 2021年 12月 山梨県立甲府南高等学校 「ロックの歌詞を読んで日本語表現を考える」 2021年 6～12月 山梨県立甲府城西高等学校 山梨英和大学連携授業「小論文」(2回)・同講座(5回) 2022年 6月 山梨県立甲府城西高等学校 「思考と表現のデザイン1」高大連携授業 2022年 10月 山梨県立甲府城西高等学校 「思考と表現のデザイン2」高大連携授業 2022年 10月 山梨県立甲府昭和高等学校 「ロックの歌詞を読んで日本語表現を考える」 2022年 12月 山梨県立甲府城西高等学校 「思考と表現のデザイン3」高大連携授業 2023年 3月 山梨県立山梨高等学校 「思考と面接のスキル」講座

社会 貢 献 活 動	(3)公開講座
	2018年 10月 山梨英和大学 「高校生対象小論文対策講座」講師
	2019年 5～10月 山梨英和大学 「思考と表現—小論文講座」(全3回)講師
	2020年 5～10月 山梨英和大学 「思考と表現のデザイン オンライン講座」(全5回)講師
	(4)学外審議会・委員会等
なし	
(5)その他	
2022年度山梨県高等学校芸術文化祭文学部門(随筆・文芸批評)審査員(審査・講評)	

## 成果と目標

専門的 成果	<p>①芥川龍之介研究 大学・大学院を通じて、日本の近現代文学、主に芥川龍之介の作品について研究してきた。山梨県立文学館では所蔵の芥川原稿や草稿等の資料を調査し、常設展の芥川コーナーの展示や芥川の評伝映画の脚本等を担当した。また「生誕百年記念芥川龍之介展」を企画し、その図録を執筆した。その後も、芥川龍之介についての研究を継続してきた。『「運命」と「All right」-芥川龍之介「歯車」第一章の分析-』(山梨英和大学紀要 第19号2021年3月)では、ジャック・ラカンの精神分析理論に基づいて、話者・作中人物の「僕」という主体の無意識が、「Allright」「オオル・ライト」という声や文字の反復によって開かれていく過程を分析し、言語と無意識の関係について論じた。『芥川龍之介「死後」の分析』(「山梨英和大学紀要」第21号2023年3月)では、作品内で言及されているフロイトの精神分析の理論に依拠して、作中の夢を解釈し、シニフィアンを連鎖して分析し、晩年の芥川龍之介の無意識の欲望について探究した。</p> <p>②日本語表現教育の研究 国語教育の分野では、高校生や大学生の思考力や表現力を育成する学習方法や教材を開発してきた。「思考の仕方を捉え、文化を深く考察する—随筆、歌詞、評論を関連付けて読む—」(『変わる! 高校国語の新しい理論と実践—「資質・能力」の確実な育成をめざして』大修館書店2016年11月)では、対比・対立関係とその媒介・統合という三項関係の思考を図示するためのワークシートを開発し、思考の可視化の方法に基づくアクティブラーニング型の授業を構築した。その研究と実践の成果を本学の必修科目「日本語スキル1・2」や学外での高大連携授業の教材開発や授業方法に活用している。</p> <p>③山梨の「ロックの詩人」の研究 山梨県出身の宮沢和史(ザ・ブーム)、藤巻亮太(レミオロメン)、志村正彦(フジファブリック)は日本語ロックの作詞者としての評価が高い。宮沢は甲府盆地から周囲の山々や河川を眺め、藤巻は御坂峠から大空を見上げ、志村は富士北麓の春夏秋冬の風景を見つめるというように、この「ロックの詩人」たちの風景に対する眼差しの差異を分析し、作品にどう表現されているかを考察して、山梨学、専門ゼミナールなどで講義した。志村正彦の歌詞については、個人ブログ(偶景web)に「志村正彦ライナーノーツ」というシリーズで330篇の論考を発表してきた(現在も継続中)。</p>
専門的 目標	<p>①芥川龍之介研究 芥川晩年の作品に現れる夢や無意識のモチーフの分析、フロイトの精神分析理論が与えた影響、ストリンダベリ等の外国文学との間テクスツ的關係性、芥川とキリスト教という重要な問題の探究が研究目標である。方法的には、ジークムント・フロイトとジャック・ラカンの精神分析理論をテキスト分析に活用することによって、芥川龍之介の小説の新しい読解を試みる。さらに、夏目漱石、志賀直哉、内田百閒を中心とする夢や幻想をモチーフとする近代文学の系譜、精神分析という知が日本文学に与えた影響についても調査したい。</p> <p>②日本語表現教育の研究 学生の思考力と表現力の育成の方法と教材の開発、特に本学必修科目「日本語スキル」のための授業方法・展開の構造化とワークシート・スライド資料等の開発のための研究を継続していきたい。論理的な思考の多くは三つの要素から成る論理の構造を持つ。その三要素の構造を可視化するための図示を活用して、学生が思考し表現する方法を確立する。また、スティーヴン・トゥールミン『議論の技法』、カイル・ペレルマン『説得の論理学—新しいレトリック』などの論理学・修辞学を研究し、理論的な根拠も深めていく。</p> <p>③日本度ロックの歌詞の研究 1960年代後半、ジャックスの早川義夫、はっぴいえんどの松本隆たちによって、日本語ロックの歌詞が創造された。その表現は近代詩(中原中也)や現代詩(渡辺武信)からの影響も受けて、〈歌われる歌詞〉と〈書かれる現代詩〉を架橋する〈歌われる現在の詩〉として評価されている。山梨出身の宮沢和史(ザ・ブーム)、藤巻亮太(レミオロメン)、志村正彦(フジファブリック)の作品はその代表例である。日本語ロックの草創期に焦点を当て、どのようにして日本語ロックの歌詞が成立したのか、その言語の実験や表現の系譜について探究したい。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------